1　「コシヒカリ」の栽培基準例（湖辺平坦）

品質の目標

項　　目	目標値
整粒歩合	80%以上
玄米ﾀﾝﾊﾟｸ(水分15%)	6.5%以上
玄米水分	15%

品質向上のためのポイント

①土壌診断に基づく土づくり、深耕を行う。
②地力の高い地域では基肥、追肥を減量する。
③穂肥は生育に基づき適正量を施用する。
④生育過多・籾数過剰となりやすい５月上旬植は行わず、５月中下旬植を行う。
⑤過剰分げつを抑えるため細植え、疎植を行う。
⑥早めの溝切り・中干し、出穂前後各３週間の常時湛水を行う。
⑦発生予察に基づく適期防除を行う（カメムシ、いもち病、紋枯病）
⑧畦畔２回連続草刈りを徹底する(出穂2～3週間前と出穂期の２回連続)
⑨収穫５日前までは水を入れる
⑩刈り遅れず、適期に収穫する。

収量構成の目安(510～540kg/10a)

収量構成	目　　安
穂　　数（本／㎡）	380～400
一穂籾数（粒／穂）	70～ 75
㎡当籾数（粒／㎡）	28,000～30,000
登熟歩合（%）	85
玄米千粒重（ｇ）	21.0～21.5

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月
生育期区分	育苗期	活着期 田植期	有効分げつ期	無効分げつ期 幼穂形成期	穂ばらみ期 出穂期	登熟期 成熟期
水管理						
栽培管理のポイント	・温度管理の徹底で徒長と葉焼けを防止する ・うす播き、均播を励行する ・十分に浸種して芽出しを確実に行う **健苗の育成**	・活着後は浅水管理とする ・田植後はやや深水として活着を早める ・一株の植付本数は３～４本とする ・荒天時の田植えは避ける ・５月中下旬に田植えを行う **適期田植え**	・中干しの茎数は目標穂数の８割で実施する **早めの溝切り中干しの徹底**	・出穂２～３週間前と出穂期の２回 **畦畔の２回連続草刈りを徹底** ・穂肥は生育に応じて適期、適正量を施用 **穂肥は生育に応じて適正量を施用** **出穂前後各３週間は常時湛水**	・品種別に適期防除 **カメムシ類防除の実施**	・稲わらの腐熟促進のため、秋耕を行う。 ・土づくり肥料を施用する。 **土づくりの徹底** ・乾燥による胴割粒、過乾燥米を防ぐ **仕上水分１５％** ・適期内に刈取り、刈遅れないよう注意 **籾の黄化率８５～９０％程度が刈取適期** ・刈取予定日の５日前まで間断かんがい **早期落水はしない**